

### 加古の道

**■新田開発の歴史を伝える歴教林**  
加古新村の新田開発は1663年の入植より始まります。開発に貢献した入植者達には、3反の歴教地が与えられました。その中の1反の土地のまわりに堀と土手を築き、土手に歴教林を配置したそうです。

**■六軒屋池のオニバス**  
オニバスは鋭いトゲが生えており、葉は大きいもので直径2m近くまで成長します。8月になると茎が水面の葉を突き破り、紫色の花が咲きます。オニバスは絶滅危惧種に指定されています。

**■加古の道**  
分境石は、昔の姫路藩領と明石藩領の境界を示す大きな石碑です。長い間地中に埋まっていたものを掘り出して、きれいに磨きあげたそうです。この石碑にまつわる村同士の喧嘩の昔話が残っています。

**■野寺の家並みと高菴寺**  
野寺集落は800年頃に開村したと言われる長い歴史を持つ集落です。旧街道沿いには伝統的なたずまいの旧家が点在し歴史を感じさせます。高菴寺の現道式が有名です。

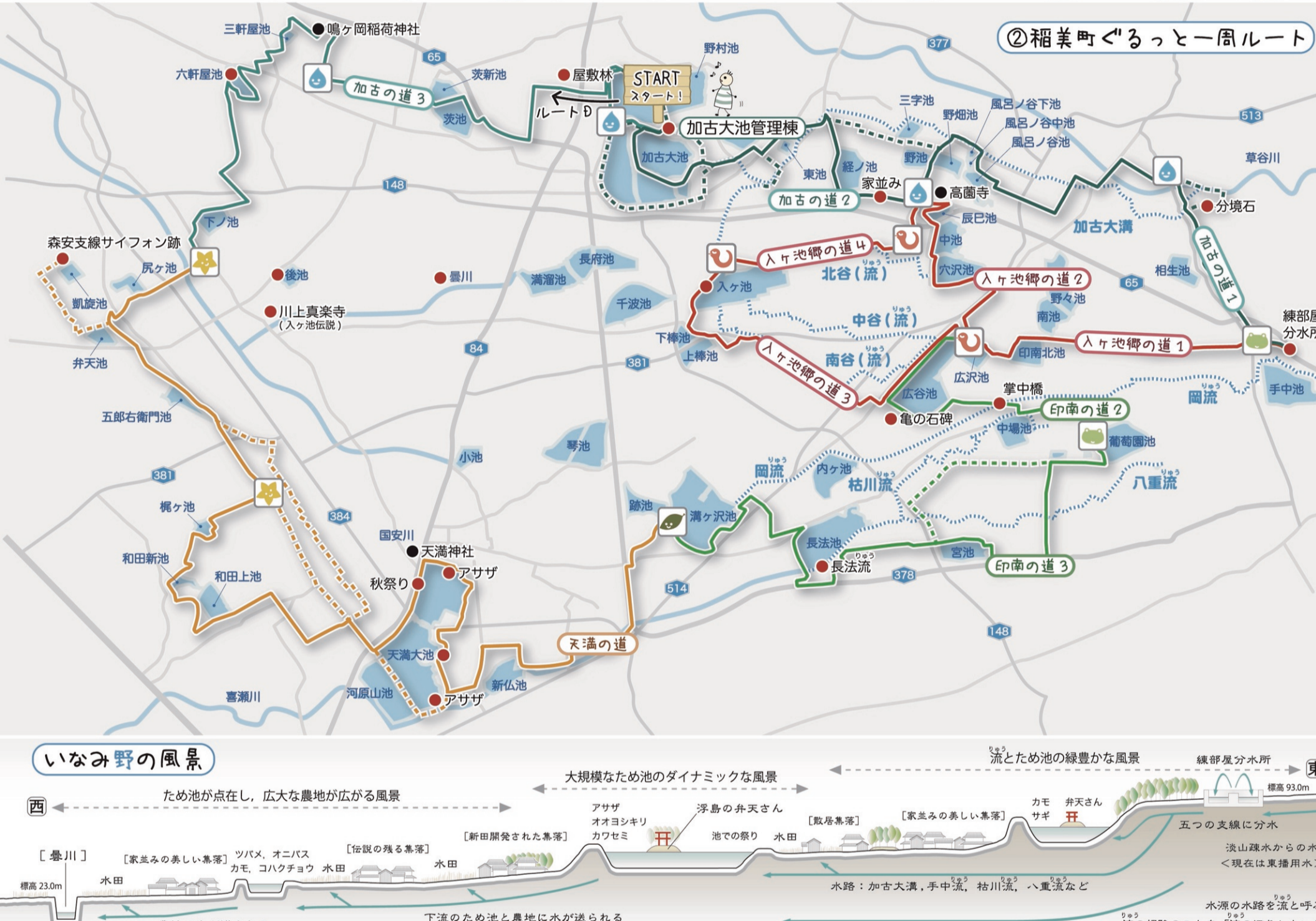
### 入ヶ池郷の道

**■曇川**  
入ヶ池からの水が流れる曇川は、曇れば水が流れることから名前が付けられたと言われています。川沿いの道は、桜や彼岸花、コスモスが季節毎に彩りを添えています。

**■川上真実寺**  
入ヶ池築造の際に、堀の柱となった「お入さん」という美女の霊を祀るために739年に建立されました。お入さんは北山の山に住んでいた500歳の蛇が化けていたと伝えられています。

**■入ヶ池**  
入ヶ池は、台地の水が集まってくる利水に恵まれた地に714年に築かれました。「お入伝説」や「穴狩屋」と呼ばれる土手が今も残ります。轟岡山・轟岡山を望む風景は、古代から続く台地の歴史を今に伝えています。

**■後池**  
後池は北山の常楽寺の手前にあります。ハスとヨシが生え、緑豊かな風景が広がっています。小さなため池なので、散策にもぴったりです。



### いなみ野フットパス ため池と流のみち

稲美町の位置するいなみ野台地は、雨量の少ない気候と台地という地形条件から、水が乏しく先人が苦労して多くのため池を築いてきた地域です。現在も稲美町には99のため池が水田を潤しており、水草や昆虫、魚、鳥など多くの生き物のすみかとなり、四季を通じて豊かな自然が育まれています。

水利用の仕組みや伝説、そして様々な生き物など、ため池を中心とする産業・文化・自然は、次世代に伝えるべき大変重要な資産です。いなみ野フットパスは、地域の方々によって長年にわたり維持管理されてきたため池を中心とした水利用の素晴らしさを、自然や文化を通して感じることのできる散策ルートです。

各ルートは、台地を東から西に流れる水の流れに沿った「加古の道」、「入ヶ池郷の道」、「印南の道」、「天満の道」とそれらをつなぐ「愛宕山の道」で構成されています。ルートには、ため池に水を集める水路である流や主要なため池、歴史の残る社寺、淡山疎水の遺構、水車や野鳥、広がりのある田園、伝統的なたずまいの集落といったため池の歴史や文化、自然に接するポイントがたくさんあります。ルートに沿って水の流れとともに台地を下ったり、流の掃除である「流のぼり」のように水路をさかのぼったりすることで、いなみ野の素晴らしい大地を体験してください。

#### いなみ野フットパスのおすすめルート

- ① 加古の道と入ヶ池郷の道**  
加古の道がたどる水は、加古大池に取水され、加古大池に溜められて加古地区の水田を潤します。県下最大のため池である加古大池の迫力と空の大きさに感動する道です。入ヶ池郷の道は、曇川から入ヶ池を経て、北谷流、中谷流、南谷流(入ヶ池の水源地)をたどります。「お入伝説」の舞台となった歴史的名ルートです。
- ② 稲美町ぐるっと一周**
- ③ 印南の道と天満の道**  
印南の道は、間流、枯川流、八重流、長法流をたどります。新田開発と淡山疎水の歴史が残る道です。散居集落の田園風景が特徴的です。天満の道は、天満大池を中心とした水の流れをたどります。県内最古の天満大池と、伝統的なたずまいを残す集落や広がりのある田園が魅力的なルートです。

発行：兵庫県加古郡稲美町 制作：神戸高等工務研究室(工藤・堀本・國原・本田) 協力：大住計研、藤原正一、藤本英樹、竹元貴司、小山由和、本岡一郎、大西成己、植田昭一郎、藤本敏行、薄昭三、沼田和子、橋成毅(敬称略)

# いなみ野フットパス

ため池と流のみち ルートマップ

兵庫県加古郡稲美町



### 天満の道

**■天満大池**  
天満大池は675年に築造されたといわれる県内最古のため池です。八重流、枯川流から水が集められています。池に住んでいる亀と弁天さんの伝説が残っています。東側の天満大池公園は憩いの場所として町内外の人々に親しまれています。

**■天満大池秋祭り**  
10月の第2土・日曜日に天満大池秋祭りが行われます。御輿を池に奇数回(1回、3回、5回)投げ入れる神事が有名です。古来より続く、ため池の湧水と五穀豊穡を願う信仰です。

**■森安支線サイフォン跡**  
中一色には、淡山疎水の遺構であるレンガ造りのサイフォン跡があります。サイフォン跡に加え、凱旋池から万歳池にかけて淡山疎水の手が残っています。

**■アサガ**  
アサガという名前は、水中に長く伸びてもつれあう茎の状態で由来するそうです。8月から10月に黄色いかわいらしい花を付けます。アサガは絶滅危惧種に指定され、天満大池を含め全国で3ヶ所のみで生息しています。(アサガは小さくかわいい花です。)

### 印南の道

**■練部屋分水所**  
練部屋分水所は、神戸市の淡河川・山田川を水源とするため池です。八重流、枯川流から水が集められています。各支線の取水口の中の広さは各支線の水利権の大きさに対応しています。現在は兼用池を水源として利用しています。

**■壱中橋**  
淡山疎水の遺構である壱中橋は、石とレンガで造られた水路橋です。この橋は間流を越えて水を流すために、85年間利用されてきました。現在は公園として保存されています。

**■亀の石碑**  
亀の石碑は、朝草新田開発の時に水不足を解決するために淡山疎水を引き入れ、広谷池を増築した記念に建てられました。碑文には、水不足に悩まされた村が繁栄に至ったエピソードが記されています。

**■長法流**  
ため池の水源地である水路のことを呼びます。長法流は枯川流と八重流の総称です。「流のぼり」と言われる、流の清掃・補修といった維持管理が地域の人々によって行われてきました。